

## 〔二〕文法・語彙

- (一) 「価値」はどちらも「あたい」と読んで物の値打ちを表す「価」と「値」の二字からなるので、アの同じような意味を重ねたものが正解。
- (二) **映像を参照**
- (三) 「相違」は「二つの物事の間には違いがあること」。よって、「お互いが似ていること」を表すイ「類似」が対義語。
- (四) 「怒り」は動詞「怒る」から転じた「怒ること」という意味の名詞。
- (五) 「哀れな」は言い切りの形が「哀れだ」になる形容動詞の連体形。形容動詞は様子・状態を表し、言い切りの形が「～だ」になるもの。ア「貴重な」は言い切りが「貴重だ」になるので正解。

## 〔三〕古文の読解

- (一) 引用を示す「～と」に続いて「叱り」、「言ひければ」とあることに注目。①は「執行なりける人」が寺に来て庭に花が散り敷いているのを見て、弟子たちを叱った言葉。②は「公文の従儀師」を呼んで、注意した言葉。
- (二) 直前に「庭の上に」あること、後に「庭を掃く」があることに着目。「散りしく」は花が散って敷かれているような状態であることがわかる。そこから、「所もなく」は、「すき間もなく」ということになる。
- (三) (一)にもある通り、傍線部の直前で、今まで庭の掃除をしなかったことで弟子達を叱っており、その後呼んだ従儀師にも注意していることからわかる。
- (四) 現代かなづかいでは原則「づ」は「ず」と表す。
- (五) **映像を参照**

## 【口語訳】

鳥羽上皇が世を治められていた頃、桜の花盛りの時に、(上皇が)法勝寺へお出かけなさろうとしたおりに、寺の執行であった人が、それを知って急いで寺に参上したところ、庭の上に、すき間もないほど一面に花びらが散り敷いていたのを見て、「驚きあきれたことだ。今すぐお出かけがあらうというのに、今まで庭を掃かせておかなかったのか」と(弟子達を)叱り、腹を立てて、公文所の従儀師をお呼びになって、「今までどうして掃除をしなかったのだ。非常識なことだ」と言ったので、(従儀師は)さっとひざまずいて、(次のように詠んだ。)

(桜の花が)散るのもつらいし、(せっかく花が)散り敷いていた庭を掃いてしまうのもつらい。花に感動して、物思いをする掃除役の役人は。

## 〔四〕論説文の読解

- (一) **映像を参照**
- (二) 「それ」は直前の「宇宙に対するある種のロマン」を指すので、さらにその内容を説明している段落全体の内容から読み取る。aは「社会に貢献するかどうか」は一世代で計るようなことではないと述べているので、経済的な尺度ではないということになる。bはこの例で、研究者が宇宙に感じているのは「ある種のロマン」であること。cは宇宙に行くには何十億というお金がかかっているけれど、「わたしたち」はそれを「許す」、つまり、肯定しているということがわかる。
- (三) 前の部分では、ある大学助教授が、自分が鱗翅学会に入っていることが教授審査にマイナスに響くという例を挙げている。**A**の後では、その例はそのくらい「特殊な世界」だと説明しているので、前の内容を説明する文が後に来る接続詞「つまり」が正解。
- (四) 直前に「そういう」という指示語があることから、前の部分に着目する。「専門家の世界」がそこからあまりにも「高度」なものになっているというところからわかる。
- (五) 経済効果と関係なく自然を探究している例を挙げてきて、これらへの理解を求めたうえで、次の段落からの最終的な科学や知識についての主張につなげている。
- (六) **映像を参照**